

# みんなで作るコミュニティスクール

発行：長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

No. 25 (R 5 (2023). 2)

信州型コミュニティスクールかわら版（旧生涯学習プログラムガイド集）ホームページ URL：  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html>

## 生徒が参加する学校運営委員会等の話し合いに



県内では、学校運営委員会や学校運営協議会の場で、学校と地域の協働活動について、学校と地域の代表者だけではなく、協働活動に取り組む児童・生徒が自分たちの実践を発表したり、現在の活動の課題や悩みを相談したり、自分たちの考えを伝えたりする場が設定されている学校があります。

子どもたちが大人の前で、自分たちの取組や考えを発表し、自分たちの考えが大人に受け入れられたり、自分たちの取組に大人が興味をもって関わってくれたりする経験は、将来子どもたちが大人になったときに、「自分たちも社会のために何かできるのではないか」という社会参画の意識を育てていくことにつながります。

### 「生徒達と地域住民が直接話す CS 推進委員会」（佐久市立中込中学校）

中込中学校では、コミュニティスクール推進委員会で、「学友会役員との懇談」が設定されています。生徒達は、推進委員である地域の方と直接話します。

※学友会は中込中学校の生徒会のこと

#### ○第1回推進委員会（6月）の様子

秋桜祭（文化祭）の企画はまだ決まっていますが、今年度も費用を集めるためのアルミ缶回収など地域の方に協力していただきたいと思います。（生徒）



昨年、回収箱を作って設置したから、昨年の回収箱を生かせるといいね。区長や商店街、病院組合に連絡して、回収箱を置いてもらえるのではないかな。（推進委員）



保護者が働いている会社に置いてもらえるかもしれないね。プレスリリースするとか、花火や七夕祭など地域イベントに合わせて中学生らしい発信をするとか、活動を見える化していくことも大切なことだよ。（推進委員）



昨年は秋桜祭で飛ばしたバルーンを市役所に展示していたね。展示できる大きさの決まりがあって展示に苦勞をしていたから、秋桜祭の後に展示することを考えるならサイズの検討は必要だから気を付けて。（推進委員）

子どもや孫がいない人にも活動が伝わると、協力してもらえる人が増えると思います。失敗してもいいからやってみることを大事にして欲しいです。中学校に関係している大人として、できることは協力します。（推進委員）



## ○その後の活動の様子

秋桜祭では、見た人が明るい気持ちになれるように「アンブレラスカイ」が企画されました。120本の傘を使うことになりましたが、校内だけでは思うように集められませんでした。そこで、地域の方に傘の回収の協力を依頼することにしました。地域の商店街や駅、病院などに、傘の提供をお願いするチラシを配布したり、提供してもらえる傘入れ箱を設置したりしました。地域の協力で120本の傘を無事集めることができました。また、アルミ缶回収では、これまでの2年間、地域の方に協力を呼びかけてきた取組の成果もあり、以前と比べて3～4倍の量が集まるようになりました。集まったアルミ缶の量はおよそ18万円分になり、傘に色を塗るための道具の購入などに生かされました。



【活動を終えて】いろいろな人を巻き込んだ活動になり、生徒は、沢山の地域の方に支えられていることを実感しました。地域への感謝の思いをもつことができましたと思います。  
(生徒会担当の先生)

懇談で、委員が情報発信の工夫や昨年の課題などを、次々と生徒へアドバイスする姿からは、地域の方の「生徒の思いを後押ししよう」とする意識を感じました。また、生徒達が困ったことに直面したときに「地域の方に相談してみよう」と考えられるのは、生徒達が地域の方と直接話すことや、地域と連携した活動を積み重ねることで、地域との関係が築かれているからだと感じました。

(東信教育事務所生涯学習課 指導主事 馬場 直樹)

## 地域に飛び出す子どもたち

各学校で、地域の様々な団体と協力し協働活動が行われています。その中で、学校種を超えた児童や生徒同士のつながりが生まれる活動に広がっていく取組が見られます。また、学校での授業の枠を飛び出して、地域で活動している団体の活動場所に足を運んで一緒に活動をしたり、休日に子どもたちが自主的にボランティアとして地域の活動に参加したりすることも多くみられるようになってきました。

### 地域学校協働活動でつながる 中学校・公民館・高校

飯田市鼎公民館が行っている体験活動講座「ずんずんず～ん隊」(遊休農地での農業体験を通して、環境学習および食育の機会とすることを目的としています)には、鼎中学校や下伊那農業高校の生徒、鼎小学校児童とその保護者が参加しています。さらに、鼎公民館職員(館長、主事)や地域の区長さんなど多くの方が関わっています。本年度、「稲作」と「大豆の種まきと収穫、大豆を使った調理の活動」を行いました。今回は、後者について紹介します。

## ○高校生の課題研究



下伊那農業高校の生徒がこの活動に参加するのは今年で3年目になります。生徒が大豆の課題研究を進めていく中で、栽培、収穫、調理までを体系的に実践で学べる良い機会となっています。それぞれの活動は、高校生が内容を企画し小中学生をリードしながら行い、保護者の方も参加者として一緒に取り組みますので、高校生がリーダーシップを発揮できる場でもあります。

今回、調理の活動で作ったのは、「キャラメル大豆」と「大豆サラダ」、「大豆のヘルシーハンバーグ」。高校生がレシピを考え、調理の手順を試作で確認し、材料を準備しました。

レシピに沿って作っていきませんが、高校生が自分で調理するのと、小学生が上手に調理できるように説明して見守るのとでは勝手が違う様子。中学生とも協力して、安全に気を配り、おいしい料理ができるように進めていました。

子どもたちが体験するというのを大切に考え、一緒に参加した保護者や地域の方が、あまり手を出さずに調理の様子を見守り、声をかけている様子が印象的でした。

## ○中学生の主体的なボランティア活動

鼎中学校の生徒は、この活動に「鼎中ジュニアボランティアステーション」を介して自ら進んで参加しています。

鼎中ボランティアステーションは、地区の様々な行事に、中学生が自らの判断で主体的に参加して地域に貢献できる場面を創出するために、令和3年度から検討を重ね、本年度からスタートした活動です。そのメンバーは、学校運営協議会の委員である鼎公民館の館長と主事、鼎自治振興センター職員、中学校長、そして中学校の委員会顧問2名で構成されています。ジュニアボランティアステーションの運営は以下のように行われています。

- ①行事を実施する団体がボランティア募集届を作成して学校に申し込む。
- ②中学校の委員会が募集届を校内に掲示し、学級連絡、昼の放送で周知する。
- ③参加希望生徒は申込書を委員に提出。委員会で取りまとめる。  
(生徒の主体性を重視した取組のため、応募する生徒がない場合もある。)
- ④ボランティアに参加した生徒は、「活動自己評価カード」を記入。担任に提出する。
- ⑤行事实施団体は、中学生の様子や感想を記入したボランティア報告書を提出する。
- ⑥担任は「活動自己評価カード」に目を通し、ボランティアステーションに提出する。
- ⑦ボランティアステーションは参加者(中学生)にボランティア証を発行する。

今回の活動で中学生は、参加者と一緒に活動する他に、受付の仕事を任されていました。参加者ひとりひとりに明るく声をかけ、検温や名簿のチェック、名札づくりを丁寧に行っていました。中学生は、会を運営する大人と同じ立場でした。

地区には公民館や各区の様々な行事がありますが、その多くは、小学生以下の「子ども」対象の行事や、大人だけが参加する行事で、これまでは、中学生が参加するものがほとんどなかったそうです。子ども扱いを卒業したい中学生が、大人扱いされながら自らの意志で運営に参画する。ここに、ジュニアボランティアステーションの良さがあります。

### ○要となる公民館

「公民館が行う様々な活動に中学生が参加することによって、中学生と地域とのつながりができることがうれしい。鼎地区は10地区に分かれているが、自分が住んでいる地区ではない所の活動にも参加する中学生が出てきた。今までは知らなかった地域の人から、ありがとうと言われている中学生はとても嬉しそうだった。様々な活動を通して多くの人とつながり、鼎に愛着を持ってほしい」と公民館長さんが話していました。



前述の通り、近年、公民館や各区の行事に中学生が参加することが少なくなりましたが、本年度は、鼎地区成人式、親子農業体験、水辺や公園美化作業、絵手紙交流会、納涼祭などに中学生が運営側で参加しています。公民館が要となって関係する方々と目指す子どもの姿を共有しながら地域学校協働活動が行われ、小中高校生、保護者、地域の方がつながり、学校、家庭を含む地域が活性化してきました。そこには、子どもたちの主体的な関わりが見られます。

(南信教育事務所飯田事務所 指導主事 内田総一郎)

## 学校支援から協働の学びへ～伊那北小学校の取組から～



伊那市立伊那北小学校のCSの様子を見学しました。今回は上牧里山クラブのみなさんが協力する3年生の駒打ち体験と4年生の炭焼きの窯出し体験の様子を見学しました。上牧里山クラブのみなさんは、伊那北小学校の校区内からボランティアで参加している方々です。

唐木隆夫さんがリーダーになり、子どもと一緒に様々な活動をしています。今回の活動も唐木さんの声かけで多くの方が参加しています。学校からの声かけだと、学校に入ることを遠慮される地域の方がいると思いますが、地域で信頼の大きい唐木さんから地域の方に声をかけると「あの人のお願いなら」と参加者が増えるそうです。この日は窯出し体験に10人、駒打ち体験に5人のボランティアの方が参加しました。地域の方がリーダー的存在として学校に関わることのよさを改めて感じました。この活動を見学に来られた久保田校長先生にお話を伺いました。「唐木さんをはじめ上牧里山クラブの方は、主体的に地域の子どもの育成にとりくまれていて、学校はいつも助けられている」と感謝していました。

見学する中で、駒打ち体験に参加した児童(3年生)に感想を聞くと「すごく楽しい。(1年後に)たくさん、キノコが生えてくるとうれしい。寒いけど、もう少し頑張る」と笑顔で話していました。窯出しに参加した児童(4年生)に感想を聞くと「窯の中が見れたし、炭をつくる初めての経験ができてよかった」と話していました。



さらによりよい活動にしていくために学校も考えています。4年生の担任にお話をお聞きすると「地域からの協力は大きい。地域から一方的な支援にならないよう、どう学校内で広めていくかが課題。(このような活動を)単発で終わらず継続したり、学年がつながったりする活動にして子どもにとって意味のある活動にしていきたい」と話をしていました。子どもと相談して、窯出し体験の思いをカードに記入したり、窯の掃除をしたりするなど子どもができる範囲で活動を広げていこうと実践されていました。

見学の日、伊那市の社会福祉協議会の方も体験会場に来られ、上牧里山クラブの活動場所が「まちの縁側 80号」として表彰(認定)されました。この「まちの縁側」は伊那市社会福祉協議会が行っている「まちの縁側づくり」という活動です。今、地域には人間関係の希薄化で、寂しさを感じる、子どもの育てにくさを感じるなど、人との結びつきを求める人がいます。そこで、「まちの縁側」のような少人数が集う日常的な居場所を地域につくり、繋がり再構築することを目的にしています。

窯出しの活動場所には、足湯やバーベキュー場など魅力ある施設が併設されています。コロナ禍で人が集まる機会は少なくなっていますが、集まりやすい環境が整っています。これまでボランティアルームを学校の敷地内につくったり、併設された場所に用意したりした学校を見てきました。場所は学校から少し離れていますが、大人が集まりやすいような工夫がされています。

この場所があることにより、人が集まり、子どもと関わり、一緒に学校に関わってもらい、そんな一翼も担っているのではないのでしょうか。

伊那北小学校では2月に上牧里山クラブの方が見守る中で、児童による活動の報告会を予定しているそうです(R3はコロナで中止)。唐木さんは学校評議員も兼ねています。学校運営に関わる方が子どもたちの様子を見たり、(この活動から)どんな学びが得られたかを知ったりすることは意味のあることではないかと思えます。

唐木さんとお話をさせていただいたり、ミーティングの様子を参観したりする中で印象的だったのは、「学校支援ではなく協働を」という言葉を多用していたことです。学校活動を手伝うというよりも子どもと一緒に活動を楽しむことを大切にされていました。子どもだけでなく自分たちも楽しむことができるから、無理なく持続可能な活動になっていくように感じました。子どもと間近で接し、子どもの学びから次の協働活動に生かしていく、そんな活動がこれから求められていくのではないのでしょうか。

(南信教育事務所生涯学習課 指導主事 唐澤 秀司)

## 令和5年度長野県生涯学習推進センター研修講座のご案内



来年度開催予定の講座の中から、学校・子ども支援に関わるあらゆる方々に、受講していただきたい講座を4つご案内します。

### 「学校の中の発達障害」

信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授 本田 秀夫 氏



学校は、集団活動が多く、ルールも設定され、その中で個別にサポートすることは、簡単ではありません。この講座では、保護者と教職員が協力して「発達障害の子の学校生活をサポートするコツ」を学びます。

ハイブリット開催  
6月15日(木)

### 「未来の教室～具体的な事例紹介とアイデアを生み出す実践～」

株式会社 新閃力 代表取締役社長 尾崎 えり子 氏



予測不可能な時代。唯一無二の正解はなく、自分たちで問いをもち正解を作っていく力を養わなければなりません。未来の学校はどうなってほしいか？先進事例を学びながら、参加者みんなで考えていきましょう。

ハイブリット開催  
6月22日(木)

### 「ともに生きる”を目指して～学校の中での福祉教育～」

日本福祉大学社会福祉学部 教授 原田 正樹 氏



数年続いているコロナ禍は、暮らしに大きな影響を与えています。本講座では諏訪市出身の先生をお迎えし、共に生きる力を育むための「学校教育」と「福祉教育」、そして「社会教育(地域)」の三者の連携について考えます。

ハイブリット開催  
7月14日(金)

### 「令和時代の“学校を核とした地域づくり”」

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本 悠 氏

国立大学法人信州大学 教職支援センター 准教授 荒井 英治郎 氏



魅力ある教育による地域創生に従事する岩本氏と望ましい教育制度のあり方をデザインする荒井氏からこれからの学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進める上でのポイントについて考えます。

ハイブリット開催  
9月8日(金)午後

申込方法は、県生涯学習推進センターのホームページをご覧ください。

#### ■■ お問い合わせ先 ■■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel: 026-235-7437 E-mail: bunsho@pref.nagano.lg.jp  
東信教育事務所生涯学習課 Tel.0267-31-0252 南信教育事務所生涯学習課 Tel.0265-76-6861  
南信教育事務所飯田事務所 Tel.0265-53-0460 中信教育事務所生涯学習課 Tel.0263-40-1977  
北信教育事務所生涯学習課 Tel.026-234-9552 長野県生涯学習推進センター Tel.0263-53-8822